

髄膜炎菌 予防接種説明書

予防接種を受ける前に以下をよくご覧ください。わからないことは接種を受ける前に医師にご質問ください。

【どんな病気？】

髄膜炎菌は、まわりを莢膜(きょうまく)という厚い膜に覆われた細菌で、人の免疫機能によって排除されにくく、体内で増殖しやすい特徴があります。髄膜炎菌は健康な人の鼻やのどの粘膜に存在しています。人から人へ咳やくしゃみによってうつり、鼻・のど・気管の粘膜などに感染します。体力が低下している時や、免疫系の疾患などがある場合には、血液や髄液に菌が侵入し、菌血症や敗血症、髄膜炎になることがあります。発症後 12 時間以内は、発熱、頭痛、吐き気など風邪のような症状ですが、発症後 13～20 時間頃には、皮下出血や発疹が出たり、息が苦しくなったり、光を異常にまぶしく感じるなど、普段とは違った症状が起こり始めます。そのまま放っておくと意識がなくなったり、痙攣を起こし、命に関わることもあります。

流行性脳脊髄膜炎は、髄膜炎菌による細菌性(化膿性)髄膜炎で、世界的に常在してしばしば流行をおこします。我が国では、まれに散発例を見る程度になっていますが、集団感染の報告もあります。アフリカの西海岸、中央部エチオピアにかけてのサバンナ地域で大きな流行があり、「髄膜炎ベルト」と呼ばれています。5 歳以下の小児に多いですが、成人の罹患も少なくありません。

【どんなワクチン？】

髄膜炎菌血清型 A、C、Y 及び W の培養液から分離精製した多糖体をジフテリアトキソイドタンパク質とそれぞれ共有結合された原液に、無菌のリン酸緩衝生理食塩液を加えて製剤化した 4 価混合ワクチンです。平成 26 年 7 月、医薬品医療機器法の承認を受け、平成 27 年 5 月から任意接種としての接種が可能となりました。

寮や合宿などの集団生活や流行地域への渡航、滞在などは感染のリスクが高くなりますので接種が推奨されます。また、サウジアラビアのメッカに巡礼する場合や、アメリカ・イギリスの大学へ留学する場合は髄膜炎菌ワクチンの接種が義務付けられていることがあります。

乳幼児への効果は不十分なので 2 歳未満には勧められません。

1 回の接種で、効果は 3～5 年持続します。

【副反応は？】

接種部位が赤くなり、痛み、腫れが生じることがあります。頭痛や疲労感を感じる人もいます。少数ながら、発熱もみられますが、3～7 日でおさまります。

【接種対象年齢・回数・間隔等】

予防接種名	接種対象年齢又は対象者	回数	当センター接種料金
髄膜炎菌	全年齢(2～55 歳)	1 回	1 回 ¥23,000

☆次頁の各ワクチン共通の説明書も、必ずご覧ください。

各ワクチン共通の説明書

1. 一般的な注意

- (1) 受ける予防接種について、この予防接種説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解してください。わからないことは予防接種を受ける前に質問してください。
 - (2) 接種当日は、母子健康手帳を持ってきてください。(成人で母子健康手帳のない場合は結構です。)
- ◎受けられる方がお子さんの場合については、保護者の方は以下の点についても特にご注意ください。
- (1) 当日は体温を計り、朝からお子さんの状態をよく観察し、普段と変わった様子がないことを確認してください。接種に連れていく予定をしても体調が悪いときはやめてください。
 - (2) お子さんの日頃の状態をよく知っている保護者の方がお付き添いください。
 - (3) 予約票はお子さんを診察して接種する医師への大切な情報です。ありのままに記入してください。

2. 病気にかかった後の接種間隔

麻疹、風しん、水痘、おたふくかぜ等にかかった場合には、全身状態の改善を待って接種してください。医学的には、免疫状態の回復を考えて次の間隔をあけてください。

麻疹 (治ってから 4 週間程度)	風しん、水痘、おたふくかぜ (治ってから 2~4 週間程度)
突発性発疹、手足口病、伝染性紅斑 (治ってから 1~2 週間程度)	普通感冒や上気道炎 (治ってから 1 週間程度)

3. 予防接種を受けることができない人

- (1) 明らかに発熱のある人(明らかな発熱とは、接種場所で測定した体温が 37.5℃以上を指します。)
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。急性の病気で薬を飲む必要がある人は、その日は見合わせるのが原則です。
- (3) 予防接種の接種液の成分でアナフィラキシー(接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や重いアレルギー反応のこと)を起こしたことがある人。
- (4) BCG 接種の場合は、外傷などによるケロイドができたことがある人。
- (5) その他、医師が接種不相当と判断した人。

4. 予防接種を受ける場合、医師とよく相談しなくてはならない人

次に該当すると思われる人は、かかりつけの医師がある場合には必ず前もって診ていただき、診断書又は意見書をもらってからご来院ください。

- (1) 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気及び発育障がいなどで治療を受けている人。
- (2) 予防接種後 2 日以内に発熱及び、全身性の発しんなどアレルギーを疑う症状がみられた人。
- (3) 接種しようとする接種液の成分に対して、アレルギーの症状が出るおそれのある人。
- (4) 今までにけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある人。
- (5) 過去に免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる人。
- (6) 家族、接触のあった友だちなどに、麻疹(はしか)、風しん、おたふくかぜ、水痘(みずぼうそう)などの病気が流行している時で、予防接種を受ける本人がその病気にかかっていない人。感染して潜伏期間(症状が出ない期間)中の場合がありますので、かかりつけの医師と事前によく相談してください。
- (7) BCG 接種については、過去に結核患者と長期間に接触があった人、結核に感染している疑いのある人。

5. 予防接種を受けた後の一般的な注意事項

- (1) 予防接種を受けたあと 30 分以内に、急な副反応がおこることがあります。接種後は安静に待機し、体調に変化がないかどうか様子を見てください。
- (2) 接種後は、生ワクチンでは 4 週間、不活化ワクチンでは 1 週間は副反応の出現に注意してください。
- (3) 接種部位は清潔にしてください。入浴は差し支えありませんが、接種した部位をこすることはやめてください。接種当日はいつも通りの生活ができますが、はげしい運動は避けてください。
- (4) 高熱、おう吐、けいれん(ひきつけ)など特に異常な症状があった時には、主治医か休日診療所を受診し、その結果を当センターへご連絡ください。

6. 予防接種の接種間隔

異なる種類のワクチンを接種する際、生ワクチン接種の場合は、ウイルスの干渉を防止するため 27 日以上間隔をあけてください。不活化ワクチン接種の場合は、約 1 週間経てばワクチンによる反応がなくなるため 6 日以上間隔をあけてください。

予防接種の種類	間隔
【生ワクチン】 結核(BCG) 麻疹風しん混合(MR) 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) 水痘(みずぼうそう) ロタウイルス(1 価・5 価) 黄熱	27 日以上の間隔をあける
【不活化ワクチン】 4 種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ) 3 種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風) 2 種混合(ジフテリア・破傷風) 破傷風 ポリオ 日本脳炎 ヒブ(インフルエンザ菌 b 型) 肺炎球菌(13 価・23 価) HPV(ヒトパピローマウイルス) インフルエンザ A 型肝炎 B 型肝炎 狂犬病 髄膜炎菌	6 日以上の間隔をあける

同時に複数の種類のワクチンを接種後に他の種類のワクチンを接種する場合も上記表のとおりです。なお、同じ種類のワクチンを複数回接種する場合、それぞれのワクチンに定められた接種間隔があります。医師とよく相談したうえで接種を受けてください。